

組織化の先進事例を学ぶ

滋賀県女性委員との意見交換

農業会議は9月26日、令和7年度第2回女性委員研修を実施。今回は、女性委員の組織化を図り活動している他府県の先進事例を学ぶことを目的に、滋賀県を訪問。府内の女性委員23人が出席した。

まず最初に、同県産の農産物を学ぶため、守山市内にあるJ Aレーク滋賀ファーマーズ・マーケットおうみんちを訪問。設立の経緯や運営について説明

を受けた後、施設内を見学した。

その後、大津市内にある滋賀県農業教育情報センターにて、湖国(ここく)女性農業・推進委員協議会(北村文尾会長)との交流・意見交換会を実施。同協議会からは副会長の今堀茂子氏、奥村喜美子氏、監事の坂田清美氏の出席があり、冒頭に同県農業会議事務局より同協議会の概要・活動実績等について説明があった。

同協議会は平成15年に設立され、現在県内62人の女性委員が在籍。県内外での研修の開催、女性登用促進に向けた県内市町村への要請活動や全国農業新聞普及活動、農業者年金の普及活動の実施などに意欲的に取り組んでいる。

意見交換では、担当地域内の農地貸借等の相談対応や農業の理解醸成に向けた取り組み、担い手の育成の方法など、委員として日頃抱えている課題や悩みについて意見が交わされた。女性委員の登用促進については、同協議会の奥村副会長から、

「委員は誰でもできる、一緒にやろうと誘えばいい」と助言があり、参加委員からは声掛けに取り組みたいという前向きな意見があった。また、女性委員の組織化について奥村副会長は、「中立委員も含め様々な立場の方がいる。立場の違う方々の意見を集める場が女性の会。聴いた意見を各地域に持ち帰り、自身の委員活動に活かすこともでき」と強調し、「大阪もきつ」とまとめる。是非組織化を目指してほしい」とエールが贈られた。(中島)



冒頭に挨拶する湖国女性農業・推進委員協議会の今堀副会長

大会実践報告

泉南農業塾の取り組みについて

泉南市農業委員会 立道 智恵 氏

報告者の立道氏は祖父の死をきっかけに2008年に姉と共に就農。Vege Furu House Buu Furu Uuu (ベジフルハウスブー



立道委員

フーウ)として水稻、季節野菜、果樹を約90ア栽培している。約2年前に先輩農業委員に誘われて委員に就任したことがきっかけで、NPO法人泉南農業塾の講師として関わるようになり、今年6月には塾長に就任し、運営に携わっている。

同塾は10年前の2015年、泉南市の担い手対策等の一環として実施されたのが始まり。翌

改選に向け女性委員登用を

このほど全国農業会議所及び全国農業委員会女性協議会は、「女性委員の登用に関するご支援・ご協力をお願い」を発出した。

第5次男女共同参画基本計画及び食料・農業・農村基本計画において農業委員に占め

る女性の割合を3割にするこ

とが目標として掲げられる中、6年度末時点では14・4%である。

来年から本格的に改選手続きが行われることを踏まえて、現段階から地域への働きかけが欠かせない。(田村)

ベントでの販売実習も行っている。卒業生が復習や手伝いに訪れることも多く、学習用ほ場は賑わっている。

人々が泉南市内で独立就農。農業委員会からの農地の紹介等により約480アの新貸借が成立しており、遊休農地の発生防止に貢献している。

また、卒業生は独立就農以外にも様々なかたちで農に関わっており、農業の裾野を広げることにつながっている。

今後も塾を継続するため、運営の負担を減らしつつ効果的な研修を行う方法の模索など、日々手探りで、地域農業の維持・発展につながる取り組みを実践している。

(田村)